

が求められる作業がいかに拙いものであったかを思い知るといふ情けない事実が浮かび上がった。今回は、こうした事態への反省を踏まえて現時点で改め得る最善の力を結集して改稿作業を遂行した。それでも監修者自身の学識・考察・調査不足のため改稿になつていない箇所が見していることを恐れるが、これが現時点でやり得る、「敍意二百韻」の「注釈」の一つを世に提示出来たことを良しとしたい。

改稿するにあたり尽力した会員は「荒川 美枝子」「井原 和世」「須藤 修二」「田中 陽子」の四名である。ここにその支援に深く謝したい。

平成二十八年 一月 十七日

焼山廣志 記